

会計学教育における情報教育のガイドライン

【到達目標 1】

ICTを用いて適切な会計情報の収集・整理ができる。

【到達度】

- 情報検索・収集・整理に必要な情報処理ができる。
- 意思決定に有用な会計情報の所在・構成・背景を理解し利用できる。
- 会計情報の信頼性が重要であることを理解し利用できる。

【教育内容・教育方法】

- は、初年次教育、共通教育などで培った基礎的なスキルを会計学の授業に応じて使用させ、表計算ソフトなどの利用のレベルアップを図る。
- は、インターネット、EDINETや各企業のWebサイト等から情報収集させる。
- は、講義などにより、信頼性と倫理について、具体的事例を通じて理解させる。

【到達度確認の測定手段】

- ～ は、プレゼンテーション、レポート、小テストで理解度を確認する。

【到達目標 2】

コンピュータを活用して会計情報を作成できる。

【到達度】

- 会計情報システムの仕組みを理解し利用できる。
- 会計情報システムにデータ入力ができる。
- 会計情報システムを用いて財務諸表を作成できる。

【教育内容・教育方法】

- は、会計情報システムの特徴を理解させるために、入力データとアウトプットとの関係を理解させる。
- は、データの入力処理を手書き処理とPC処理と比較させて確認させる。
- は、入力されたデータが財務諸表にどのように反映したかを確認させる。

【到達度確認の測定手段】

- ～ は、レポート、ディスカッションなどで理解度を確認する。

【到達目標 3】

ICTを活用して、会計情報の分析・表現ができる。

【到達度】

- ICTを活用してデータを分析できる。
- 分析結果の報告にICTを活用できる。
- 会計情報の信頼性担保の仕組みの可能性と限界を理解できる。

【教育内容・教育方法】

- は、表計算ソフト、XBRLなどを利用した財務分析の演習を行う。
- は、演習、グループディスカッションなどでアプリケーションソフトを用いてプレゼンテーションさせる。
- は、講義で内部統制やシステム監査などに触れる。

【到達度確認の測定手段】

- と は、プレゼンテーション、レポート、小テストで理解度を確認する。
- は、小テストなどで確認する。